

Good Job
グッドジョブ!!

現場で働くプロに聞く!!



Jリーガー

J. Leaguer

名前

てつと ひろし
鐵戸 裕史 さん(広崎4町内)

在籍チーム/2009年～

松本山雅 FC (長野県)

ポジション

ディフェンダー

背番号

16 番

子どもの将来の夢で毎年上位にランクインする職業、サッカー選手。益城町は意外にもサッカー選手を多く輩出している。今回はその選手の中から、Jリーグの松本山雅FCに在籍する鐵戸裕史さんに話を聞いた。

鐵戸さんが幼い頃、熊本から鹿児島へ移り住んだ時、「友達を増やす」意味で父敏久さんからサッカーを勧められた。初めこそ軽い気持ちだったが、次第にサッカーの魅力を理解するようになった。そして93年のJリーグ開幕の時には立派なサッカー少年に成長した。共に汗を流す仲間や信頼できるコーチに恵まれ、そのまま中学、高校、大学へと進学した。

「サッカーを楽しみたい」

「プロになる夢はありましたが『俺なら絶対なれる』という自信が全くなくて、モヤモヤした気持ちでした」そんな時、学生が子どもたちに指導をするサッカー教室『ユニキッズ』にコーチとして参加した鐵戸さんは、本気でサッカーを楽しむ子どもたちの姿に出会う。

「サッカーは楽しい。面白い。逆に教えられるてしまいましたね(笑)。自分も楽しめばいい、もっと楽しみたい」とこのことが背中を押して、鐵戸さんは本格的にプロ選手への一歩を踏み出す。部活以外にも自己トレーニングに1層励み、25歳の時ついにプロ入りを果たした。

プロの現実 不安と成長

努力の末念願叶ったものの、プロの道はそうたやすくなかった。契約を結んだ07年からわずか2年(2シーズン)でまさかの戦力外通告。「ものすごくつらかった。次のチームが決まらなくて『またピッチに戻れるだろうか』と毎日不安でした」約半年の無所属期間を練習とアルバイトをしながら過ごした鐵戸さん。その間に自分の内面とことごとく向き合った。そして「今まで本気でサッカーに向き合っていなかった自分」に気づく。後にその経験が「成長に繋がった」と鐵戸さんは語る。

益城産Jリーガー誕生

現在所属する松本山雅FCは地域リーグからJFL、J2、J1と三度の昇格。痛快なサクセスストーリーに全て立ち会った鐵戸さんは「選手冥利に尽きる」と喜ぶ。「まずはJリーグでピッチに立つことが目標。ここまで来ることができたのは支えてくれた家族や親友のおかげ。本当に感謝したい」

「現状維持は怠慢だ」。監督の反町康治氏の叱咤激励を胸に、Jリーガー鐵戸裕史選手の挑戦は続く。

▶(右写真) 2014年3月9日行われたロアッソ熊本とのアウェイゲーム。2014シーズンでは「大きなケガがなかった」ことが一番良かったそうだ。「丈夫な身体に産んでくれた両親に感謝」と話す。

▶(左写真) 新年のあいさつとリーグ昇格の吉報を伝えるに1月6日、町長室を訪れた鐵戸さん。

